

2
月号

びざん



中川富夫さんが県産和子牛共進会で農林水産大臣賞を受賞

▲品評会での「ひさふくゆり」と中川さん (写真提供：全農とくしま)

▲現在、飼育中の子牛

12月13日、上板畜産センターでJA全農とくしまが主催する第51回県産和子牛共進会が開催され、北井上事務所管内の中川富夫さんが育てた「ひさふくゆり」が見事、農林水産大臣賞に輝きました。

品評会では、県内の繁殖農家31軒が計117頭を出品し、月齢に応じた発育状況が審査されました。「ひさふくゆり」は、雌で生後272日、体重308kgで「発育状態が良く、体の幅もあり理想的な体格」と評価されました。

中川さんの飼育のこだわりは、手間・労力がかかりますが、自給飼料を使用し育てることです。繁殖においては、肉質・造体・繁殖能力のバランスを考慮しながら統血するため、情報収集をしっかり行っています。

今回の受賞において中川さんは、「丁寧に育ててきたので、非常に嬉しい。毎日のブラッシングを入念に行い、丁寧に散髪・爪切り等の手入れをすることで、牛とのコミュニケーションを図ることができ、牛との信頼関係を保つことは、人間に対するストレスを軽減させ、良質な肉質を保つことに直結する。今後也多角的に視野を広げて工夫し、良質な牛を育てたい。」と笑顔で話しました。

最も大事にしたいのは「人脈」 若手生産者・大西啓太さん



加茂名支所管内で、主にカリフラワーを生産する大西啓太さん(28)は、就農して4年目です。妻・萌さん、従業員3名と共に、カリフラワー6鈴、枝豆3鈴、かぶら1.5鈴、ほうれん草70kg、プロッコリー1鈴を栽培しています。

多品目を生産する複合経営で、就農してから着々と面積を拡大する中でも、高品質な生産物をいかに効率良く栽培・出荷するかを日々模索し、汗を流しています。中でも、規模拡大に不可欠である従業員の常時雇用においては、従業員に切れ目なく作業を割り振ること、人材の確保の難しさを実感しています。

苦労を重ねる中でも、最も大西さんの楽しみにしていることは、農業機械の導入です。昨年は、畝立て播種機2台と全自動播種機1台の計3台を導入しました。機械導入によって、作業効率が上がリ、時間が大幅に削減され、成果を実感できるのが何より嬉しいそうです。経営・投資においては、信頼できる先輩からの助言を参考にすることで、今までたくさん良い結果を得られてきました。大西さんは、「仕事をする中で、最も大事にしたいのは「人脈」。農家同士のコミュニケーションも業務の一つだ。今年の抱負は借りられる農地を探し、さらに面積を拡大すること。」と意気込みます。

冬至ゆず 荷造り作業が順調



果樹選果場で12月上旬から冬至ゆずの荷造りを開始しました。

11月中旬に収穫されたゆずは、各生産者の所有する貯蔵庫で保管され、11月末から荷受けがスタートしました。果樹選果場の従業員の手作りで1パックあたり2.5kg(250g×)ずつ、ゆずが詰められました。

今年は表年あたり、12月4日から関東・京阪神市場を中心に前年比(20%)の6万3,000パック(約15.7kg)の出荷がありました。

果樹選果場担当者は、「冬至には日本古来の伝統的な風習に連れ、柚子湯に浸かって温まり、1年の疲れを癒していただけなら嬉しい。」と話しました。

(ゆずをパック詰めする様子。撮影は、12月12日)

児童が餅つき大会で 一足早いお正月気分を



多家良支所青壮年部は12月11日、徳島市立宮井小学校で餅つき大会を開催しました。

9月下旬に5年生の児童が初播きから始まり、田植え・稲刈りを行い、収穫したもち米約60kgが使用され、全校児童79名とその保護者が毎年恒例の餅つきを行いました。

最初に児童たちは、青壮年部員の餅つきを見学し、威勢の良い掛け声と息の合った杵さばきの迫力に見入っていました。低学年の児童は杵の重さに苦労しながらも、べったん、べったんと力いっぱい餅をつきました。

できあがったつきたての餅に、きなこやあんこ、醤油をつけ、自分達の好みで食べた児童は、「つきたてで何個も食べられそう。」と一足早いお正月気分を味わっていました。

多家良支所青壮年部 高皆根督也部長は、「地域一体となり子どもたちの食農体験に協力し、食べ物の有難みと農業に理解を深める機会を今後も継続したい。」と話しました。

多家良支所胡瓜部会圃場巡回

12月18日、多家良支所胡瓜部会は、株式会社埼玉原種より浦川和弘講師を招き、ハウスの圃場巡回・調査を行い、温度や灌水、摘果・適葉作業、病害虫対策など今後の管理についての指導を受けました。部会では現在、主にニーナZ・エクセレント等の数品種を栽培しており、「品質が第一」との目標を掲げ、さらなる品質の向上を目指しています。

部会では、今年度、13軒が190アールを栽培をしています。今年の総出荷量は420ト、目標販売金額は1億3,900万円を計画しています。



JA 徳島市管内の
情報をお届け



梅部会 剪定講習会「剪定後の姿をイメージして」

佐那河内支所梅部会は、12月12日に剪定講習会を開催しました。長谷部秀明営農指導員がサンプルの木を説明しながら剪定し、生産者に講習しました。

長谷部指導員は、日当たりや風通しをよくするため、剪定後、どのように花が咲いて成長していくか、剪定後の姿をイメージしつつ、同方向に伸びて重なった枝や、交差した枝をつくらないように間引くことや、作業中の怪我を防ぐため、樹高を低く調整することを熱心に伝えました。また、適切な施肥、防除の時期についての注意喚起や、剪定のポイントを説明しました。大西整部会長は、「剪定は、梅の品質向上に大きなウエイトを占めている。しっかり技術の向上に努めたい。」と話しました。



直売所の「もったいない野菜」を提供 フードバンクとくしまから感謝状



当JAは12月2日、グランヴィリオホテルで開催された、NPO法人フードバンクとくしまの設立10周年記念式典において、感謝状を受けました。

当JAは、約5年前から松茂直売所から野菜・果物をフードバンクとくしまへ毎週提供しており、その貢献が称えられました。

直売所からの野菜・果物は、週1回、ボランティアによってフードバンクとくしま本部へ集められており、利用を希望する登録団体(約50ヶ所)が必要に応じて提供を受けています。主な登録団体は、障がい者施設、子ども食堂運営団体などであり、利用者の食事等に使用されています。

清田麻利子理事は、「規格外の農産物など、有効利用できる食料はまだある。それらをさらに循環できる仕組みづくりが今後の課題だ。」と述べました。小角久雄参事は、「地域に貢献すると共に、フードロス削減に繋がる良いサイクルをJAからもっと広めていきたい。」と話しました。

【写真=フードバンクとくしま 清田理事長㊦より、感謝状を受け取った小角参事㊧】

北井上・南井上事務所女性部 フラワーアレンジメント教室開催



南井上事務所女性部は12月15日、北井上事務所女性部は、12月19日に各事務所で開催しました。フタバ花園・中村雅彦さんを講師に招き、

花の挿し方や、種類ごとの特徴、全体のバランスの取り方、花の管理方法について説明を受け、それぞれの魅力的な作品を作り上げました。

【写真㊦は、北井上事務所女性部、㊧は、南井上事務所女性部】



阪神主力市場8社へ 販売依頼・市場視察



12月4日・5日、岩井公章常務、営農経済部 井河勝淑部長は、販売促進依頼のため関西市場8社(大果大阪、大阪中央青果、大果北部、東果大阪、奈良大果、全農大阪、南部合同青果、北果)を訪問しました。

12月までの単価は、出荷量の減少により好調に推移していましたが、年末にかけては、高温・降雨の影響があれば、厳しい状況が考慮されるため、各社の要望や当JAからの要請等、意見交換を行いました。

市場からは、各販売店の売り場確保に努めることや、2024年問題を踏まえ、量販店のオーダーの発注時間より出荷報告時間が遅い問題が課題として挙げられました。

さらに、異常気象や温暖化が進んだことにより、北海道が今まで栽培をしていなかった品目の野菜

の参入を図りつつあることについて意見が交わされました。

岩井常務は、「生産者にとっては、1年間の中で最大の商機である年末に、JA徳島市の農産物の販売により一層の力を注いでいただきたい。」と強く要請をしました。近年の生活様式の変化によって、年末商戦自体がなくなりつつあることから、市場側からは、「年始の商戦においても、できる限りの努力を図りたい。」との意見をいただきました。

井河部長は、「時代の変革によって生活スタイルが大きく変わっており、コロナ禍を境として、そのスピードがさらに加速したと感じている。これからは、その変革に柔軟に順応できる産地を目指すことが求められてくると思っている。」と述べました。

楽しみながら半農半漁 斉藤さん



管内で農業を営む斉藤喜代美さん（71）は、夫・千秋さん（72）と共に長年、半農半漁で生活を送っています。11月末、斉藤さんは、阿南市沖合でワカメの種付け作業に励んでいました。ワカメの胞子

を付けた種系を1本ずつロープに差し込み海面に張ります。冬の間にワカメは成長し、収穫の予定は3月末頃です。12月、ワカメの種付け作業がひと段落すれば、2月中旬まで、2年前から挑戦する菜の花（20畝）の収穫作業に本腰を入れます。

そして3月、ワカメの収穫が終わると約20年間栽培を続ける、オクラ（約10畝）の作業が始まり、再び農業に専念します。

自宅（阿南市那賀川町）から、オクラの圃場（徳島市）まで約20㌔の距離があり、斉藤さんは「オクラを始めたころは、孫4人の世話もしていた。孫たちの夏休みの昼食作りのため、圃場と自宅を往復していた頃が1番大変だった。」と笑顔で話します。

幼い頃から農業に励む両親を見てきた影響もあり、漁業の傍ら、自然と就農することになりました。毎朝3時

に起床するので、時間に追われることなく仕事も家事もこなせるそうです。収穫前の作業が落ち着く時期は、家庭菜園や趣味の手芸に熱中します。一番楽しみにしているのは、正月に家族が集まって行う餅つきで、自身が栽培した「ムラサキエンドウ」の豆で餡子も手作りします。

斉藤さんは、「仕事を辞めたら、きっと病気になる。作ることも食べることも大好きで、料理を振舞う楽しみもあるから、ずっと仕事を続けられる。」と笑顔で話しました。

【写真⑥は、ワカメの作業から船舶で漁港に戻る斉藤さんと夫・千秋さん（撮影：11月末）

⑥は、菜の花を管理する斉藤さん。】



中核人材研修会 修了論文発表会で最優秀賞に四宮課長が選出



【写真は、松田清見組合長⑦より表彰を受けた四宮課長⑧。】

徳島・高知・愛媛県3県の中央会主催による中核人材研修会が令和5年6月より半年間にわたり実施され、自組織の改革案をまとめた修了論文発表会が12月14日、徳島県JA会館で開催されました。審査の結果、川内支所金融共済課四宮わかな課長が、徳島県の最優秀賞として選出され、2月の全国発表会へ派遣されます。

中核人材研修会の目的は、地域農業の振興や、豊かな暮らしづくりをJAが行うために、JAの全体戦略、各事業部門の事業戦略等の立案、組織内の改善・改革を実践する「次世代リーダー」の育成です。

四宮課長は、修了論文発表会で「よろずや農協の構築」と題したプレゼンテーションを行い、JAの「総合事業」の強みを活かした相談業務を基軸とする、自組織の「コンサルティング課」の配置を改革案として発表しました。そして、現在のJAの現状分析と課題、コンサルティング課を配置した場合の効果と、そのゴール・目標などを挙げました。四宮課長は、「研修を通して、原点回帰し、JAの存在意義や仕事をするに当たり大切なことを学ぶことができた。組合員・利用者の方々との信頼関係を構築していくためには、何よりも人間力が必要だと思った。研修会で学んだことを、日頃の業務に生かし、「これからのJAにはさらに明るい未来がある。」と組合員・利用者の方々や、若手職員が思える組織になるため、より一層、業務に取り組んでいきたい。」と話しました。

さまざまな選択肢をご提供 「資産形成・運用セミナー」を開催



当JAは、12月16日、八万支所・徳島支所で「資産形成・運用セミナー」を開催しました。セミナーは、2部制となっており、事前予約制で集まった各部約30名が参加しました。農林中金全連アセットマネジメント株式会社営業部シニア投信アドバイザー 深澤由里子氏を講師に招き、資産形成・運用の必要性や、NISA制度の概要、新NISA制度

開始に向けた準備について説明を受けました。また、資産運用の基本について、投資における「リスク」の考え方やリスクとの付き合い方として、分散投資を行い、10年以上で長期保有した場合のシミュレーションが挙げられ、収益を安定化させる例、つみたて投資のメリットなどが紹介されました。

松田清見組合長は、「セミナーを通して、参加者ご自身のお金と向き合うきっかけとなり、組合員・利用者の皆様に様々な選択肢をご提供できれば嬉しい。」と話しました。

園児が児農産工場を見学

農産工場は、12月20日、徳島市の認定こども園「みつぼしこどもえん」の4歳児クラスの園児22名を招き、工場見学会を開きました。

武田元成工場長が搾汁前のゆずの選別作業の様子、搾汁機、シソの塩蔵の樽、すだち、ゆず搾汁の冷蔵庫、いちごの冷凍庫、また搾汁後のゆずの残渣などを見学してもらいながら説明をしました。

園児は選別後にベルトコンベアで搾汁機にゆずを送る機械を見て「ゆずがエスカレーターに乗っているみたい。」と驚き、また、冷蔵庫は、「人が入れる大きな冷蔵庫を初めて見た。」と目を輝かせながら見学していました。



甘藷部会が 販売依頼で市場訪問と視察

東部営農経済センター甘藷部会の部会員19名と佐藤徹也職員は、12月4日、5日に年末の出荷挨拶を兼ねて、市場を訪問しました。訪問は、2年に1度行っており、今年度は大果大阪青果へ行きました。大果大阪青果では、セリの見学を行い、担当者から甘藷の現状報告を受けました。9月よりスタートした共同販売について、市場から、より販売がしやすくなったとの評価を受けました。しかしながら、選別レベルが定まっていないとの指摘を受け、今後の課題となりました。部会としては、市場への日頃のお礼と、年末商戦に向け、甘藷を少しでも良い状況で販売していただくよう嘆願しました。

また、親睦会を開催し、大果大阪青果、大果北部支社、京都青果、全農とくしま大阪事務所よりそれぞれの担当者へ出席いただき、部会員は意見交換などを通じ、親睦を深めました。

さらに、姫路市にある肥料メーカー「片倉コープアグリ」の訪問も行いました。肥料製造担当者より工場概要等の説明を受け、工場内で肥料の製造工程を見学し、質疑応答を行いました。この訪問をきっかけに、部会で今まで使用していなかった「ソイルサプリエキス」の試験導入を行うことが決定しました。





お知らせ

農業委員会より

●「農業者等との意見交換会」開催について

徳島市農業委員会では、今後の農業施策につなげるため、農業経営の課題や農業施策等について話し合う「農業者等との意見交換会」を開催しています。今回は、地域で農地を借り受け大規模化した当委員会の委員、市、県農業支援センターから取組み報告を受け、地域農業の課題について考えます。皆さん、ぜひご参加ください。

【日 時】令和6年2月9日（金） 15:00～16:30

【場 所】徳島市役所 13階 大会議室

【内 容】報告1「地域農業の存続に向けて、私がしてきたこと」

… 徳島市農業委員 板東 美佐緒 氏

報告2「本市の農業振興施策について」… 徳島市農林水産課職員

報告3「支援センターの取組み」（仮題）

… 徳島県徳島農業支援センター職員

質疑応答・意見交換

【申し込み】参加希望の方は、2月5日（月）までに地域の農業委員・農地利用最適化推進委員、または事務局までご連絡ください。

※駐車場に限りがあるため、公共交通機関や乗り合わせでご参加ください。

【連絡先】徳島市農業委員会事務局 TEL 621-5394 FAX 621-5196

相談

●鳥田清弁護士無料法律相談

【日 時】第3土曜日 9:00～12:00

【申込先】金融共済部へ事前に予約が必要

☎ 088-622-8003

【場 所】本所1階金融相談室

●賀上延啓税理士事務所無料税務相談

【日 時】2/6(火)、2/13(火)、2/20(火)

9:30～15:00

【申込先】総務部へ事前に予約が必要

☎ 088-622-6335

【場 所】本所1階金融相談室

理事会だより

（開催：令和5年12月22日）

協議事項

（1）令和5年度上半期末監事監査

回答書について【可決】

（2）出資口数の一部減口について【可決】

報告事項

（1）債権回収について

健康 百科

「最近の糖尿病治療について～その2～」

みなさん、こんにちは。徳島往診クリニックの吉田です。前回、日本糖尿病学会の「2型糖尿病の薬物療法のアルゴリズム」の途中まで紹介しました。今回は、次のステップの薬剤選択についてお話しします。

同アルゴリズムでは、4つのステップに沿って薬剤を選択することとされていますが、まずはインスリン療法が適でない場合は、食事／運動療法で数カ月以内に反応があるかを判断し、反応がなければ薬物療法を開始します。そしてステップ1において、以下の如く病態に応じた薬剤選択をします。

・非肥満 (BMI 25kg/m² 未満)：インスリン分泌不全を想定して、DPP-4 阻害薬、ピグアナイド薬、αグルコシダーゼ阻害薬、SGLT2 阻害薬、GLP-1 受容体作動薬、イメグリミン、グリニド薬、SU 薬の中から

・肥満 (BMI 25kg/m² 以上)：インスリン抵抗性を想定して、DPP-4 阻害薬、ピグアナイド薬、αグルコシダーゼ阻害薬、SGLT2 阻害薬、GLP-1 受容体作動薬、イメグリミン、チアゾリジン薬の中から

*細胞にブドウ糖を取り込むというインスリンの仕組みがうまく働かないため慢性的に「血糖値が高い」状態を糖尿病といいます。その原因のうち1つはインスリンの効が悪くなることで、これをインスリン抵抗性といいます。多くの場合、肥満がその要因です。肥満になると、インスリンが多く分泌されても、脂肪組織から出る悪玉物質が肝臓、筋肉、脂肪組織でインスリンの効きを低下させます。もう1つの原因は、膵臓からのインスリン分泌の低下です。これには遺伝的体質や加齢が影響します。糖尿病には1型と2型があり、90%以上を占める2型糖尿病は、インスリン抵抗性とインスリン分泌低下の2つが重なって起こり、多くは中年以降に発症します。一方、1型糖尿病は自己免疫疾患などによってインスリンを分泌する膵臓が傷害されて起こり、小児の発症も少なくありません

徳島往診クリニック 吉田大介

ステップ2では安全性への配慮が示されていますが、このアルゴリズムではステップ1において肥満では7剤が、非肥満では8剤が単に列記されているのみで推奨度順なのかどうか判然としません。これに対して、日本糖尿病・生活習慣病ヒューマン・データ学会による「糖尿病標準診療マニュアル」では、その中の「糖尿病の治療の流れ」において開始すべき単剤をはっきり示しており、その後追加していく薬剤名も明示されていますので、こちらをご紹介しますこととします。

ステップ1：単剤で開始

A) ビグアナイド薬 (eGFR30 mL/分/1.73m² 以上)：

(適宜増量後) 数カ月以内に反応があるかを判断。

ステップ2：1剤上乗せ

B) DPP-4 阻害薬

C) SGLT2 阻害薬 (心血管疾患の既往、心不全、微量アルブミン尿・蛋白尿を有する場合は積極的に開始してよい)

(適宜増量後) 数カ月以内に反応があるかを判断。

ステップ3：さらに1剤上乗せ

種類の異なるステップ2の薬剤を追加。または、D)、E) から1剤を追加してもよい。

D) αグルコシダーゼ阻害薬

E) SU 薬 (少量) またはグリニド薬

(適宜増量後) 数カ月以内に反応があるかを判断。

ステップ4：さらに1剤上乗せ

B)、C)、D)、E) から、さらに異なる1剤を追加。

(適宜増量後) 数カ月以内に反応があるかを判断。

ステップ5：多剤併用やインスリン、GLP-1 受容体作動薬を考慮

以上です。次回は各薬剤について説明しますね。

